



平成27年8月18日(火) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
地域医療推進課	障がい児者医療推進係	山田 育康	内線 2628、058-272-8279(直通)
特別支援教育課	特別支援学校整備係	高井 繁喜	内線 3557、058-272-8751(直通)

希望が丘子ども医療福祉センター及び 岐阜希望が丘特別支援学校のリニューアルオープンについて ～竣工式及び内覧会を開催！～

平成23年度から再整備を進めてきた岐阜県立希望が丘学園と岐阜希望が丘特別支援学校が、いよいよ平成27年9月1日から、岐阜市内にある現施設の隣に移転オープンします。

希望が丘学園では、重症心身障がい児や肢体不自由児のための入所病床や短期入所の拡充、医療・検査設備の充実、さらには発達障がい児のための児童精神科外来の常設化や、新たな療育支援プログラムなど、医療・福祉両面で機能強化を図り、「希望が丘子ども医療福祉センター」として、新たなスタートを切ります。

また岐阜希望が丘特別支援学校も、普通教室や特別教室の増設、医療的ケアルームの整備など設備の充実を図るほか、高等部の新設により、小学部から高等部までの一貫した教育体制を実現するなど、肢体不自由教育の中心となる学校として体制を強化します。

については、オープンに先立ち下記のとおり竣工式・内覧会を開催しますので、お知らせします。

記

1 竣工式・関係者内覧会の概要

- (1) 日 時：(竣工式)平成27年8月22日(土)午前10時～10時40分
(関係者内覧会)平成27年8月22日(土)午前10時40分～11時30分

- (2) 会 場：岐阜希望が丘特別支援学校ランチルーム(希望が丘広場)
※希望が丘子ども医療福祉センター・岐阜希望が丘特別支援学校施設内
岐阜市則武1816-1(センター：TEL058-233-7121)(学校：TEL058-231-6500)

- (3) 内 容：①オープニングアクト

・岐阜希望が丘特別支援学校の児童生徒が、それぞれの障がいの特性に応じて、学校の校歌を楽器演奏や歌で元気いっぱい表現します。途中先生も参加し、児童生徒たちの頭上に大型パラシュートを展開し、児童生徒と一緒にパフォーマンスを披露します。

- ②主催者あいさつ(岐阜県知事)

- ③来賓祝辞

- ④記念植樹

・全国育樹祭の開催にちなみ記念植樹を行います。知事、センター所長、学校長と学校児童生徒・センター入所児が3組のペアになって、淡墨桜、臥龍桜、荘川桜の本県を代表する3種類の桜の苗木に土をかけるセレモニーを行います(苗木は式典終了後センター南側の屋外リハビリパークに植樹します)。

- ⑤テープカット

- (4) 主催者：岐阜県

- (5) 出席者：県選出国會議員、岐阜県議会議長ほか関係県議會議員、関係医療機関代表者、関係福祉団体代表者、地元関係者、地元機関、工事関係者、県関係者 など
約150名

2 一般向け内覧会

- (1) 日時：平成27年8月22日（土）午後1時～午後5時（入場締め切り：4時30分）
 (2) 場所：希望が丘こども医療福祉センター・岐阜希望が丘特別支援学校（岐阜市則武1816-1）
 (3) 参加者：どなたでも自由に参加・ご観覧いただけます（事前申し込み不要）。

3 希望が丘こども医療福祉センター・岐阜希望が丘特別支援学校の概要

区分	希望が丘こども医療福祉センター	岐阜希望が丘特別支援学校
利用者数	・入所定員／53名[現入園児:20.2名] ・通所定員／50名[現通園児:36.2名]（※1）	・児童生徒数／90名(小・中・高) [現:62名(小・中)]
主な機能	①障がい児（肢体不自由児、重症心身障がい児、発達障がい児）の診療・療育【病院】 小児整形外科・整形外科、小児科、児童精神科、リハビリテーション ②肢体不自由児・重症心身障がい児のための長期入所【医療型障害児入所施設】 ③在宅で生活する重症心身障がい児等の短期入所（レスパイト）【医療型短期入所事業所】 ④在宅の肢体不自由児、重症心身障がい児の親子通所【医療型児童発達支援センター】 ⑤障がい児支援の中核拠点としての外部機関への指導・助言、連絡調整【地域連携室】 ⑥発達障がいに関する人材育成・ネットワーク構築、巡回相談、研究【発達精神医学研究所】	県全体の肢体不自由教育の拠点 ・対象とする障がい：肢体不自由 ・設置学部：小学部、中学部、高等部 (高等部は平成28年4月設置) ・学校規模：児童生徒数 90名程度 内訳：小学部 40名 中学部 20名 高等部 30名 ・主な対象地域：岐阜市及び各務原市に在住、または希望が丘こども医療福祉センター入所生・通所生 スクールバス2台（岐阜県立長良特別支援学校と共同運行）
延床面積	・約7,600㎡ [現:4,800㎡]	・約8,400㎡ [現:約2,000㎡] (第2期工事分を含む)
共通	・所在地／岐阜市則武1816-1（現施設西隣）[現:岐阜市鷺山向井2563-57]	
	・敷地面積／約31,000㎡[現:約12,800㎡]	
	・建物／鉄筋コンクリート造2階建	
	・総事業費／約62.7億円(※2) 【施設別内訳】 希望が丘こども医療福祉センター:約31.4億円（うち国基金:約15.7億円） 岐阜希望が丘特別支援学校:約31.3億円（うち国補助金:約5.9億円）(※3)	
		

※1：H22～26年度の平均 ※2：旧施設解体費を除く ※3：総事業費、国補助金共に、H27.4現在見込

4 新施設の再整備に伴って強化される機能

(1) 希望が丘こども医療福祉センター

【重症心身障がい児、肢体不自由児支援機能の強化】

■医療型障害児入所施設としての機能を拡充

①入所のための病床数の拡大と生活機能の向上

- ・現在は30名程度の受け入れが限界である病床数を50床に増床
- ・個室、2床室、4床室と、入所児の状態像や介護の特性等に応じた生活環境の提供が可能

②入所児のケアに必要な医療設備の充実

- ・重症心身障がい児の痰（たん）の吸引などに必要な設備を病床ごとに整備するなど、医療的ケアに必要な設備が充実

■小児整形外科機能の充実

- ・小児整形外科を擁する県内有数の病院として、一新した手術室・設備のもと、非常勤麻酔医師の新規配置、MRIの新規導入による検査体制の強化などの機能を充実

■重症心身障がい外来の新設（10月～）

- ・非常勤小児科医2名の体制により、週1回（10月～12月は2回／月程度）、重症心身障がい外来を開設し、在宅で生活する重症心身障がい児者のための相談診療（児の健康チェックや保護者からの在宅医療に関する相談対応など）を実施

■在宅重症心身障がい児の短期入所の拡充

- ・在宅生活を送る重症心身障がい児の保護者支援を強化するため、レスパイト（※）のための短期入所の受け入れ人数を、県内最大規模に拡充

【短期入所の利用定員】

区 分		現 状	再 整 備 後
日帰り利用	平 日	5名	5名
	土日、祝日	3名	5名
宿 泊 利 用	平 日	2名	2名
	金土日、祝前日、祝日	2名	5名

（※）家族の障がい児のケアを一時的に代替しリフレッシュしてもらう在宅支援サービス

■計画相談の機能強化

- ・医療的ケアのある障がい児の計画相談業務について受け皿となる相談機関が少ないことから、新施設の稼働に先駆け平成27年4月から相談支援専門員の配置を増強。今後、看護師の相談支援専門員資格取得・配置を含めさらなる強化を図る。

【発達障がい児支援機能の強化】

■発達障がい児診察の拡充

- ・国立大学法人岐阜大学医学部精神病理学 ^{たかおか けん} 高岡 健 准教授を常勤医（発達精神医学研究所長 兼 児童精神科部長）として招へいし、児童精神科外来（現在は週1回2時間のみ）を常設化 ※平成28年4月からは、更に常勤児童精神科医2名体制への拡充を予定

高岡健氏 略歴

- ・1953年徳島県生。1979年岐阜大学医学部を卒業後、岐阜赤十字病院精神科部長などを経て、現在は岐阜大学医学部准教授（専門：精神病理学）。
- ・日本児童青年精神医学会理事、日本総合病院精神医学会評議員、日本精神病理学会評議員。
- ・少年事件の精神鑑定も数多く手がけるかわら、NHK「クローズアップ現代」への出演、各地での講演活動など、本県のみならず全国規模で活躍。
- ・著書に、「自閉症論の原点」「やさしい発達障害論」「続やさしい発達障害論」「発達障害という希望」など多数。雑誌『精神医療』（批評社）の編集委員を務める。

■発達障がい児のための親子評価入院の開始

- ・発達障がい児とその保護者が親子で入院し、子どもの特性の評価や保護者支援などを通して、療育の方向性に関する指導・助言を受けるプログラムを、専用室を設けて実施
- ・希望が丘が擁するセラピスト・看護師・心理士・保育士など多職種の療育技術を活かし、年齢や障がいの特性に応じた複数のプログラムを展開
- ・就学前児や小学校低学年対象の日帰りコースを9月から毎月第2・第4火曜日に実施（定員：1～2組の親子）

※プログラム開始に備え、これまでに4名の日帰り入院をプレ実施済み。

※親同士の交流やペアレントトレーニング等保護者支援機能を充実した2泊3日コース（定員3～4組を予定）についても今後導入予定。

■発達障がい児のための「グループ活動 ぱれっとくらぶ」の開始

- ・発達障がい児が小集団に所属する体験を通して、他者との関わりやコミュニケーション能力の醸成を図るとともに、保護者も障がいの特性に理解を深めつつ我が子への具体的な関わり方の示唆を得る、通院型の集団精神療法プログラムを新たに実施
- ・就学前児を中心とした5名までのグループで10月から毎月第2・第4木曜日に実施（全10回のコース）

※①未就園グループ（就園を控えた2、3歳児）、②就園児グループ（園生活になじみにくい4、5歳児）、③学齢児グループ（対人関係や集団行動に困難を抱える小3までの学齢児）の構成により、今後順次拡大を予定）

■発達精神医学研究所の新設

- ・発達障がい児が、県内のどこでも適切な診療や療育が受けられるよう、希望が丘こども医療福祉センター内に「発達精神医学研究所」を新設し、以下の事業を展開

①発達障がいの臨床を通じた専門医師の育成

- ・発達障がいをはじめとする子どもの心の診療を通じた臨床経験を積むことにより、児童精神科医学領域の専門医を育成

②発達障がい児の支援に携わる人材の育成とネットワークの構築

- ・小児科医、精神科医に加えて、保育士等、多職種に対する研修、相談を行うとともに、療育支援ネットワークを構築

③巡回訪問による療育支援

- ・研究所の児童精神科医と心理士・精神保健福祉士がセンターの療育スタッフとチームを組み、支援が手薄な地域を中心に訪問し、アウトリーチ型の相談・指導を実施

④発達障がいに関する研究

- ・様々な発達障がいの症例を研究対象とし、病理や診断評価及び治療やケアの在り方及び家族・学校・療育機関における支援方法を研究

【障がい児支援・共通】

■リハビリテーション機能の充実

- ・感覚統合療法室の新設をはじめ、療法ごとの内容や特色に応じた専用室の充実など、リハビリテーション体制を強化

理学療法室、作業療法室、言語聴覚療法室【旧】9室（433㎡）⇒【新】13室（523㎡）

感覚統合療法室 **新設** 3室（86㎡）

(2) 岐阜希望が丘特別支援学校

■高等部の新設による一貫した教育の実現

- ・現在の小学部・中学部に加え、平成28年4月に高等部を設置し、小学部から高等部までの一貫した教育を展開
- ・普通教室を現在の15室から28室に増やし、児童生徒数90名程度を想定した肢体不自由対象の専門校として、岐阜市及び各務原市に在住、または希望が丘こども医療福祉センター入所生・通所生を受入れ
- ・地域支援センターを設置し、地域の保護者、幼稚園、保育園、小中学校・高等学校、企業、医療・福祉等関係機関との連携を円滑に進めるための相談及び支援等の役割を強化。また、研修、就学支援、就労支援等も担う。

■障がいの重度・重複化や多様化に対応

- ・日常的に医療的ケアを必要とする児童生徒のうち、経管栄養など教室で実施することが困難な医療的ケアを行うため、医療的ケアルームを新たに整備
- ・重度の肢体不自由の児童生徒の体育活動及び自立活動に対応するため、身体のリラクゼーションやリハビリ効果を目的としたジャグジープールを新たに整備（第2期建設工事、工期：H28.6～H29年中）
- ・全面バリアフリー化、十分な面積を確保した屋内運動場（体育館）やグラウンドを整備（第2期建設工事）

■職業教育にも対応した特別教室を整備

- ・障がいの程度に応じて学習内容が選択できるように、簿記やビジネス基礎、情報処理等を学ぶための商業関係室をはじめとし、作業室、調理室、陶芸室等の特別教室を整備

5 竣工式・内覧会会場位置図

